



みなとだより

和歌山市立湊小学校
令和7年7月号

私の「リンゴ」を見つめて



教育目標
人間性豊かで
たくましい子

「校長先生の好きな食べ物は何ですか？」と、6年生の男の子に聞かれました。6年生の朝の会で、「好きな食べ物」をテーマにしたグループトークを横で聞いていた時のことです。私は、「リンゴとカレーライスです。」と答えました。好きな食べ物を「リンゴ」と答えるとき、いつも思い出すことがあります。

日本一のリンゴの産地といえば青森県を思い浮かべます。1991年の秋、台風によってリンゴ農家が大切に育てていたリンゴの9割が収穫する前に木から落ちてしまいました。リンゴ農家にとっては、とても悲しいことですし、収入も大きく減ってしまいます。

しかし、この状況にあるアイデアが救ったそうです。落ちないで残った1割のリンゴを「落ちないリンゴ」という名前で、縁起のいいものとして受験生に買ってもらったのです。値段は、1個1,000円程度。普通のリンゴだったら、買う人は少ないでしょうが、この「落ちないリンゴ」は、飛ぶようにあっという間に売れたそうです。

このアイデアは、視点を変える、つまり見方や見る方向を変えることで生まれたアイデアです。台風で木から落ちてしまった9割のリンゴを見てがっかりしているだけだったら、思いつかなかったと思います。落ちた9割のリンゴではなく、「落ちなかった1割のリンゴ」に目を向けたとき、このアイデアは生まれました。落ちてしまっても木に「ないリンゴ」ではなく、落ちずにまだ木に「あるリンゴ」に目を向けたのです。

私たちはついつい、あればいいのになあとと思うこと、つまり今はないことに目を向けて、それをうらやましがったり、それがないからダメなんだと怒ってがっかりしたりしてしまうことがあります。

誰々さんのように駆け足が速いといいのになあとか、誰々は勉強ができるけど自分はそうでもないなあとか、お隣の子はいつもグループのリーダーで活躍していてうらやましいなあというようにです。

でも、それは台風で落ちてしまって、もう木にはないリンゴに目を向けているのと同じだと思います。そうではなくて、まだ落ちていない、今木にちゃんとあるリンゴに目を向けることから新しいアイデアが生まれたように、子供にも、子供が持っているものをよく見極めて、それを活かすことが子供を活かすことではないかと思うのです。

もし、親がよその子にはあるけれども自分の子供にはないことばかりに目を向けて、それがあればいいのにと親が思っていると、その思いは知らず知らずのうちに子供に伝わります。自分はこれができないからダメなんだ、それでお家の人はがっかりしているんだ、と怒ってしまうかもしれません。

反対に、子供が持っているもの、子供にあるものに目を向け、こんなふうにならしていきいだろう、こんなふうにならしていきいだろうと思っていれば、子供も自分の才能を伸ばしていこうと思うでしょう。これは、本校の教職員も心がけていかなければならないことでもあります。ご家庭と学校とが同じ方向を向いて子供たちを育てていくことで、子供たちもまたすくすくと成長していくのではないのでしょうか。

1学期のまとめの時期になりますが、子供たちには、自分の頑張ったことに目を向け、夏休みには、ぜひ、自分の良さを見つめ、自分にあるものを生かして、様々な体験や学びに取り組んでほしいと思います。